

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200168		
法人名	株式会社 フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム せきの憩		
所在地	岐阜県関市塔ノ洞2601番地		
自己評価作成日	平成28年 7月 7日	評価結果市町村受理日	平成28年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanji=true&JigyosyoCd=2190200168-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	平成28年 8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月実施するカンファレンスにおいて、全職員が発言をし、モニタリングを実施。小規模ユニットであることの特長として、ご利用者様の表情の変化や体調の変化にすぐ気付くことができ、サービス内容についてはもちろん、日常生活での変化などについても議論・検討し、最適なケアプラン作成を心掛けています。また、皆様それぞれの趣味・嗜好の違いを職員が把握し、定期的に開催するイベントにも積極的にご参加頂いています。慣れ親しんだ地域での生活の継続、個人の自己決定や個性を大切に、抑圧のない、自宅でくつろいでいるかのような雰囲気作りをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の交代があり、職員の離職も重なって、職員配置の薄い状態が続いている。同法人の他ホームからの応援で急場をしのいでいるが、早期の安定雇用・配置が望まれる。日常的な外出支援に影響が出ているが、毎月「外出イベント」を企画・実施することによって、利用者の閉塞感を緩和することに効果を上げている。機を見て、車を利用しての柔軟なドライブも実施されており、利用者の楽しみとなっている。食事支援にも柔軟な対応が見られた。献立は法人が決めているが、食欲の落ちた利用者のために「ご飯」を「そうめん」に変更したり、家族から頂いた新鮮な野菜を調理し、おかずを1品増やす等の対応である。自立度が高いことから食事介助の必要はなく、利用者が様々な手伝いをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、フロンティアグループ「我々の接遇5原則ルール」などの唱和を全職員で実施し、その実現に向け、日々意見交換を行っています。	管理者の交代があった。新管理者は「笑顔が絶えない毎日」を実現させるため、利用者、職員双方に理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶はもちろん、職員による通勤時の車の騒音など、地域周辺への配慮を注意喚起しております。 また、自治会地域清掃への参加もしています。	地域の過疎化、少子化が進んでおり、地域との交流・連携は益々難しい状況となっている。自治会には地元出身の職員を参加させ、情報を収集して地域行事への参加を模索している。	地域の清掃活動にも参加しているが、時間的な問題(早朝開催)もあって、職員のみでの参加となっている。利用者が参加できる地域行事が増えるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学を随時行っており、気軽に足を運んで頂けるようにしています。 施設の概要説明を行い、認知症についてのご相談も受け付けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様・市職員様・民生委員様にご参加頂き、活動報告、懸念事項、人事の変動についてなど近況報告を行っています。また、ひやりハット、事故も全報告しています。参加者様からご意見を募り、反映できるよう努めています。	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ホームの運営状況を中心にメンバーに報告している。家族の参加が少ないことから、次回の会議は「納涼夏祭り」と同一日の開催を予定している。	会議では、運営の状況報告に加え、「目標達成計画」のモニタリング(進捗管理)を実施することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも必ず参加され、近況報告して頂けます。 また、空室状況の報告も行っており、お問合せを頂くこともあります。	運営推進会議には、高齢福祉課から必ず担当者が参加し、地域包括支援センターの職員も同席する。生活保護受給者の入居もあり、市・担当課と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修が毎月行われており、仮に同じ内容が重複したとしても、さらなる確認と復習の意味も含め、全職員で情報共有、周知徹底しています。 施設内フェンスがあるため、日中は玄関の施錠はしていません。	玄関の施錠を解き、庭のフェンスに施錠することに変更したため、利用者は自由に庭に出ることが出来る。ドラッグロックの排除にも取り組み、看護師との連携、主治医の了解のもとに、眠剤を外すことに成功した例がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を毎月開催し、全職員で虐待(3大ロック)について学習しています。 例えば、無意識でスピーチロックに該当する発言が見受けられた場合などは、管理者・職員同士で注意喚起しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では成年後見制度の利用はありませんが、生活保護利用者の受け入れを行っており、情報収集に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者が契約書の内容説明、読み上げを行い、ご納得頂いたうえで契約して頂いております。 また、契約変更が発生した場合は、速やかにご報告、説明し、質疑応答を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を施設に設置し、自由に記入、投稿できます。 また、フロンティア本社へ直接連絡して頂くことも可能となっております。	交通アクセスの問題もあり、足の遠のいている家族が多い。毎月「外出イベント」を企画・実施しているが、家族の参加はない。如何にして家族にホーム運営や利用者「係わり」を持ってもらうか、今後の課題である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や普段のコミュニケーションから職員の意見を聞き、また、それら現場の声を、毎月開催される管理者会議で報告、反映させています。	管理者の異動(退職)によって、数名の職員の離職があった。同法人内のホームから職員の応援を受けて対応している。職員の意見を収集するため、新管理者は積極的に現場に入っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給や、能力・実績に応じた賞与支給の仕組みなどがあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社での研修は多岐にわたり、フロンティアグループ職員には無償で提供されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関市主催のイベントに参加し、情報交換を行うなど交流を深め、また、フロンティアグループ施設のイベントに参加するなど、質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず、ご本人様、ご家族様と面会します。 その際にご要望などを伺い、また、性格、趣味、嗜好などを尊重し、安心して暮らせる環境を提供できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が相談しづらい状況にならないよう配慮し、個別で面談の時間を設けるなどしています。 不明瞭な点は排除し、信頼を得られるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと連携をとり、ニーズの見極めと、ご家族様の要望を吟味し、ケアプラン、サービス内容に反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活用し、食器拭きや調理、清掃など、無理のない範囲で役割分担し、共同生活を営んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「せきの憩だより」を毎月作成し、近況報告を行っております。 「お客様要望シート」「ご利用報告書」などを作成し、ご本人様の声もお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内が経営する理髪店に足しげく通い、現在も利用を続けている利用者様もいます。 他の利用者様へも温かく対応してくださり、外出支援の一環ともなっております。	2ヶ月に1度程度ではあるが、職員が付き添って、馴染みの(実の妹が経営している)床屋さんに通っている利用者がある。他の利用者も同行し、一緒に髪を整えてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立状態にある場合は、職員が携わることによって円滑な人間関係を得られることが多く、また、日々の暮らしの中で、協力しあう姿も多くみられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後も、ご相談・お問い合わせを随時受け付けております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「お客様要望シート」に、ご本人様の意見や希望を記入して頂いております。記入が困難な場合は、職員がヒアリングし、代筆を行っています。	日常の会話の中から職員が掴んだ利用者の思いや意向は、「お客様要望シート」に記録される。このシートは家族に送付することを目的としており、ホームでの支援に活用されることは少ない。	職員がつかんだ利用者の思いや意向を、支援につなげる仕組み作りを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人様、ご家族様へヒアリングを実施し、生活歴や暮らし方、性格、趣味、嗜好などの把握に努めています。入居後も、情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日報、介護記録等を出勤時に確認し、さらに特記事項などあれば、申し送りで全職員に周知しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様はもちろん、ご家族様の要望も極力取り入れ、介護職員、専門職、医師の意見を反映できるよう、モニタリング時は全職員で議論しています。	毎月、介護支援専門員を対象とした法人主導の研修が生まれ、充実した介護計画作りが進んでいる。身体的なケアに関する計画が主体であるが、利用者の自立度が向上した例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を介護記録へ記入し、気付いた点、変化のあった点など、随時職員間で情報共有し、常に新しい情報を介護計画に取り込めるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向が変化した場合、ケアプランの変更、サービス内容の充実化など、可能な限り対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方々との交流は減少傾向にありますが、心の豊かな日々を送って頂けるよう、ボランティア慰問などを定期的に計画、実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向を尊重しています。 協力医による月2回の往診の他、歯科医、精神科医の往診もあります。	ほとんどの利用者がホーム協力医を利用している。歯科衛生士が毎週来訪し、6名の利用者が口腔ケアの指導を受けている。精神科専門医の往診もあり、2名の利用者が受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、ご利用者様の心身状態に常に気を配り、看護職員への連絡網体制も敷かれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、日常生活の様子、状態などの情報を医療機関へ提供し、入院中は定期的に訪問、状況把握したうえで、ホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、終末期看取りに関する意向をご家族様に伺い、対応方針等の説明を行っています。 しかし、年月と共に意向が変化することは多々あり、その場合は、話し合うことにより合意を得ます。	ホームでの看取りに対して協力医の理解があり、これまでの経験から職員にも特別な嫌悪感はない。利用開始時に利用者・家族の意向を確認しており、特別養護老人ホーム等へ併願している利用者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、知識の習得に努めています。 また、急変時などに機能する連絡網体制が敷かれており、それはホーム内数か所に掲示してあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し、全職員、知識を深めるよう努めています。 避難経路はホーム内数カ所に掲示しています。 飲料水など備蓄あり。	管理者は、着任後直に防火責任者の講習を受け、ホームの防災には強い責任感を持っている。年2回の防災訓練(避難訓練)を実施しているが、地域住民が参加したことはない。	過疎化が進んでいる環境を考慮すると、夜間の災害発生時には、ホームと地域との綿密な連携が必要となる。消防関係をも巻き込み、災害時の地域の連携体制の構築を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロンティアグループ「我々の接遇5原則ルール」を毎日唱和し、プライバシーに配慮した介助、声掛けを行うよう、職員同士で注意喚起しています。	法人が定めた接遇の5原則があり、身だしなみや言葉遣いにまで言及している。接遇5原則が契機となり、利用者の権利擁護に関する職員意識は確実に高まっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思を尊重し、画一的な支援にならないよう細心の注意を払う。全ての場面において、自己決定を最優先しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員から強制、強要することはありません。心身面とのバランスを考慮しながら、可能な範囲内で、ご自身のペースを尊重した住環境を提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装は自己決定して頂いています。理美容に関しても、ご本人様の意向を尊重し、外部理髪店の利用などもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やおやつ作りを積極的に行っています。協力的な利用者様が多く、食後の食器を台所まで運んでくれることが多いです。	献立は法人の決定であるが、小規模なホームのため、柔軟な対応が可能である。食欲のない利用者のため、ご飯をそうめんに変更したり、家族が持参した新鮮な野菜を使って1品増やしたりと、適宜に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を健康管理表に記入し、全職員が把握できるようになっています。各食、管理栄養士により献立が組んであり、栄養バランス、カロリー調整してあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは習慣化しており、お声掛けにより自ら洗面所へ向かい、自身で遂行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後、一週間にわたり、排泄パターンの検証を実施。 プライバシー、自尊心に配慮したお声掛けや誘導を行っています。	車椅子の利用者がポータブルトイレを使用しているが、他は全てトイレでの排泄である。99歳の利用者が昼夜共に布パンツで過ごしており、職員は自立排泄の継続を目標に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルトに代表される乳製品が食事に採り入れられ、排泄の内容、状態に関して全職員で情報共有し、特に便秘傾向の強いご利用者様に関しては、医師へ相談するなどの対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望をお伺いしたうえで、入浴して頂いています。 事前に体調の把握をし、無理に入浴を勧めることは致しません。	利用者の気持ちを大切に、ほぼ全員が週2回の入浴支援を受けている。季節の柚子湯、菖蒲湯に加え、入浴剤を使用して利用者にも入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は特に定めておらず、夕食後から就寝まで、ご利用者様の自由な時間としています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロンティアグループ「誤薬に対する取り組み方法」に則り、きめ細かい確認作業、服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごして頂けるよう、清掃や食事の準備、洗濯物の整頓などの役割分担をし、個人の嗜好も継続しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を好まないご利用者様が多いですが、天候や季節を感じれるよう、外出イベントを定期的に計画、実施しています。	日常的な外出支援は、職員の配置の問題もあって十分な対応が難しい状況ではあるが、車を利用してドライブには出かけている。毎月、外出イベントを組んでおり、職員は趣向をめぐらせて利用者の楽しみを演出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替払いが多いため、実際に使用することは少ないが、ホーム内では、ご本人様に財布や金銭を管理して頂いています。(認知症の度合いによります。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話共に特に規制はしていません。ダイヤルが困難なご利用者様に代わって、職員がダイヤルすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行や車イスでの通行の妨げにならないよう、動線上に物は置かず、容易に移動できる通路を確保しています。 また、各種イベント時の記念写真をリビングに掲示しています。	外出イベントでの利用者の様子を伝える写真が、ホールの壁に掲示してある。季節感のある「ひまわり」と「朝顔」の紙細工の壁掛けは、利用者と職員との共作である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが数か所に用意しており、テレビ視聴時や、会話時に使用するなど、自由に活用して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに関して特に制限は設けておらず、お好きな寝具・家具など自由に設置して頂いています。 ご家族様の写真を飾るご利用者様も多いです。	利用者の暮らしの充実を図るための居室づくりを、以前から家族に協力を依頼しているが、ほとんどの居室に馴染みの品々は少ない。	新たな利用者について、契約時等の機会をとらえて「居室作り」の重要性を家族に伝え、充実した居室作りの推進を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本設計が古く、完全なバリアフリー構造ではないため危険な要素もあるが、可能な限り職員が寄り添うことにより、自立した生活の妨げにならないよう心掛けています。		